

ヴェルダはエスペラント語で「緑の」という意味です

## ヘラシダが危ない

—— 移植保全と環境整備へ ——

和光市と日本自然保護協会、当会が協力して、市民参加型の湧水自然環境調査を1999年から3年間行った中で、埼玉県立自然史博物館の太田和夫先生が植生調査中にヘラシダを発見されました。しかしこの場所は、今年に入り自生地から数メートル付近まで大規模な伐採が行われ、ヘラシダの生育環境が一変してしまいました。

シダの専門家である埼玉大学の安田啓祐先生と太田先生に現状を視察していただいたところ、このままでは遠からず消滅してしまうので、早急に移植をして保全する必要があるとのことでした。移植地を検討いただき、一部移植をし、自生地は環境整備をしていくことになりました。移植に先立って、太田先生のご指導で自生地の自生の様子を細かく記録をとりました。(高橋絹世)



暗い所に育つヘラシダ。そこに日が当たってしまっています



立派なケヤキが切り倒され、緑の森が消えました

かつての自生地の姿  
(台地上から)

### ヘラシダとは

ヘラシダは関東地方南部以西の暖地にふつうな常緑シダである。山地の林下や溪流沿いの陰湿な場所に生育し、長く這う根茎で群生する。

埼玉県内のヘラシダの分布は、越生町の黒山にかつて生育していた記録があるもののその後消息が不明で、「埼玉レッドデータブック-植物編」では「情報不足」となっている。

今回発見されたヘラシダ生育地は、現時点では埼玉県内における唯一の自生地として貴重であるとともに、関東平野内陸部における北限の生育地として学術的な価値が極めて高く、ヘラシダの生育に影響を及ぼすであろう周囲の山林と共に保全の措置が必要である。(報告書から。太字は編集部)



安田・太田両先生と現地視察



環境課と自生地調査～

### ヘラシダ・発見から移植まで

2001年9月

湧水自然環境調査中に発見される  
2003年5月

宅地開発、自生地までおよぶ

2003年6月 現地視察

2003年7月 部分移植・環境整備

# 春のカタクリ観察会 白子の湧き水とともに

3月30日、一般にも呼びかけ市内の観察会を行いました。

まずサツキやツツジの植え込み内に咲くニリンソウ群落を観察。ここから出発して街道沿いの湧水が点在する様子を見ながら、斜面に差し掛かるとカタクリの咲くなだらかな坂が見えてきました。キツネノカミソリの葉の緑も鮮やかです。

さらに坂を登り台地上から急な北斜面を見下ろすと、一面のカタクリが見つかりました。花の満開にはまだちょっと早いようです。百段階段を下り、旧道に戻り、さらに東上線の線路を越えます。のどかな田園風景が一面に広がっています。

しばらくすると新しい家が立ち並ぶ所に出ます。ここは区画整理が進んでいます。少し坂を越えると到着です。細い道を通り、湧き水のある洗い場手前まで来ると一面の見事なカタクリ群落です。ここから畑の畦を歩いて梅林に行き、足を伸ばして珍しい白花カタクリも見ました。

この付近一帯はニリンソウやイチリンソウも咲く春植物の楽園です。こんなすばらしい所を区画整理してしまうのはもったいないですね。(高橋絹世)



市内にこんなにカタクリが咲く所があるなんて信じられない！～参加者の声  
(これは2003年4月10日に撮影したもの)



斜面上部から見下ろすと一面のカタクリがあります



ずいぶん歩きました (洗い場で)

## 観察会と講演会のお知らせ

日時●10月19日(日)…予定

白子湧き水観察会 午前9時半～12時

こんこんと湧き出る水や、周りの緑と水の行方を観察し、湧き水でコーヒーやお茶を入れます。

講演会 午後13時～15時

講師をお招きして地下水の涵養についてお話を伺います。

場所●和光市白子コミュニティセンター

主催●講演会…白子川流域環境協議会 観察会…当会

## 和光市 市民祭りに参加しました



テント設営完了！



呼び込み、説明に大忙し。中央がクヌギの苗

**見るとするとは大違い** 市民祭りには昨年まで一般市民の立場で午前11時頃、のんびり買い食いをしながら野菜や昼食用のうどんを買って、賑わいを楽しんで帰った。入会して初めて参加する今年は、朝7時に起床、8時には現地でテント設営を加藤さんと確認する。展示、呼び込み、説明と立ち詰め、昼までには足元が相当怪しい。

**いろいろな関心の持ち方がある** 事前に打ち合わせを行なったとはいえ、入会1年目ですべてを理解しているわけもなく、まあ、どうにかなるさと腹を決める。実際に尋ねてこられた方は、「本当にカタクリが和光で咲いているの？ どこで？」「画材にしたいので写真をお借りしたい」「炭はどこで焼いたの？」などなど様々だ。

**さて、来年は** 去年ドングリを拾って育て展示したクヌギの苗は予想以上の反響。来年はもっと育ててみるかと思いつつ、育った苗木をどこに植えよう？ 苗はもう40センチまで育ったが、自宅の団地のベランダで大木にはできない。種から育てたクヌギ、コナラ、クリの林の間伐し、炭を焼いて湧き水を沸し、コーヒーを飲むのが20年後の夢だが、私も70歳になっていますぞ。(渡辺佳雄)

## 樹林公園観察会～子どもも大人も親子でも



樹林公園内の谷中川源流付近をたどる



こっちのサクランボはあーまいぞ

沖野さんが見つけた  
てんとう虫のさなぎ

6月7日、大人も童心に帰って子ども達と一緒に総勢22名、五感（見る、聴く、触れる、嗅ぐ、食べる）を使って、公園の自然観察をしました。ちょうど熟した山ザクラのサクランボ、食べてみると甘い。でも隣りの木のはすっぱく、木によって違うので驚きです。

また公園の南東は谷中川の源流域です。たどっていくと溝があり、かつてはここに小川が流れていました。松林を抜け野草の保護地を観察し、コナラ育生地のある樹林地へ。

ここは間伐後、明るい所は草原のようです。コナラ育生地に到着後、木の高さ測りを皆でしてみました。小学生はすぐに測り方を理解し、2本目のサクラは測れるようになりました。およそ18mです。この間、大人組はコナラ育生地の草の手入れ。幼樹の周り1mの草を刈り取り、それ以外は昆虫達のために雑草を残し、雑草とコナラが共存できるように見守ることにしました。

**湧水の会へ若葉のペダル急く  
新緑の萌えてかがやく樹林園** (小川瀬轟)

# 和光樹林公園 2年目に入った植生回復とクヌギ・コナラの成長を見守って

樹林公園の一部でヤマザクラなどを間伐し、自然の植生を回復する試みが続けられています。

6月7日の観察会の時は、周囲の草の丈がコナラなどよりわずかに高いくらいでしたので、植樹の周囲直径1メートルぐらい、コナラ、クヌギの下部の葉の高さまで草刈りし、あとは自然のままに残しました。

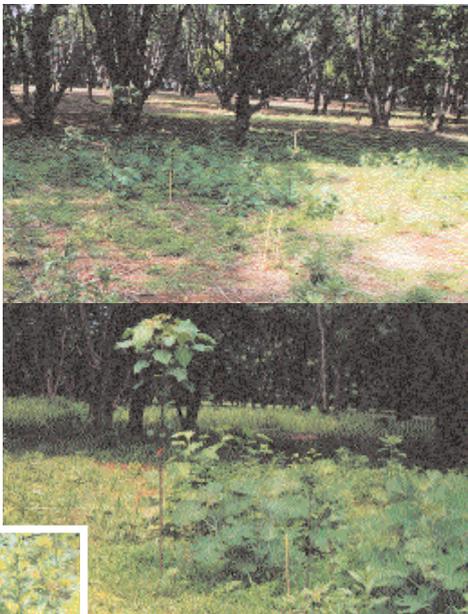
7月19日の調査ではタケニグサ、メマツヨイグサ、エノコログサなどが草原状に70cmから2mにも成長してきたので、コナラなどに日が当たるように周囲2mぐらいの範囲を草刈りしました。6、7月に草はとも成長しますが、コナラ、クヌギも成長にばらつきがあるものの大きくなってきています。

当会では照度測定、コナラなどの成長記録を継続してとっています。ぜひ観察にいらしてください。

5月

東側～間伐材の置き場だったので草の成長が遅い (5月7日)

南西側～植生が豊か。アカメガシワは2年目 (5月24日)



6月

コナラの植え替え中 (6月27日)



一面、緑の草原に！～コナラ・クヌギの周囲2メートルを草刈り (7月19日)

7月



元気なクヌギ

4月



ブルーの宝石・フデリンドウの群落



調査中フデリンドウがなくなっていました



成長を続けるコナラ



ミツバツチグリが満開 (4月12日)



みんなで照度測定など。草はまだまだ (4月27日)

## 会の今年の活動

- 1月 『和光の身近な自然探訪』出版記念会と今後の打ち合わせ verda 5号発行
- 2月 樹林公園：コナラ、クヌギの幼樹定植を実施
- 3月 総会。春植物のカタクリなど、春の観察会
- 4月 樹林公園：光の照度と生育植物の観察と記録 (継続中)
- 5月 和光市市民祭りに参加
- 6月 樹林公園：子ども・大人・親子での自然観察会  
ヘラシダ自生地：安田先生・太田先生と視察
- 7月 ヘラシダ生育調査と移植  
樹林公園：コナラ育成地の照度測定と環境整備

ヴェルタ  
**verda**

ヴェルタ No.6

2003年7月31日 発行 (Web版につき変更を加えております)  
発行 緑と湧水と流れの会

【連絡先】代表 高橋絹世 tel.048-462-9912

あなたも入会していっしょに和光の素晴らしい自然を見守っていきませんか。どなたでも入会できます。

和光市民新報・連載「和光の緑と湧き水」(執筆・当会の高橋勝緒) もあわせてご覧下さい。